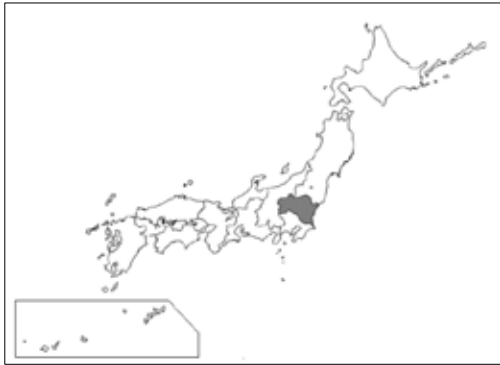


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

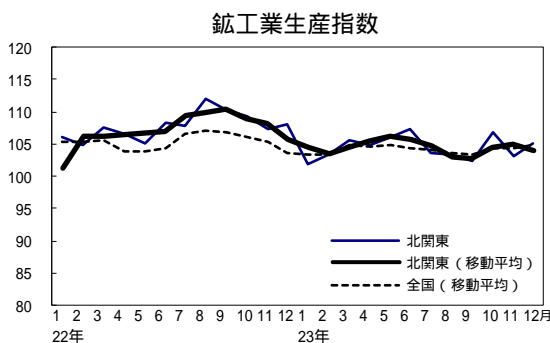
前回からの主要変更点

	前回(令和5年11月)	今回(令和6年2月)	
景況判断	一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している	足踏みがみられるが、緩やかに回復している	
個人消費	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、前期比 1.9% 増となった。月別にみると、10 月は「輸送機械」が増加したこと等により前月比 4.3% 増、11 月は「輸送機械」が減少したこと等により同 3.4% 減、12 月は「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により同 1.7% 増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
石油・石炭、化学、プラスチック	21.3	4.0	2.7	5.9	2.9	1.1
電子デバイス、電気・情報通信	16.8	6.3	4.4	6.9	2.2	0.3
汎・生産・業務用機械	14.6	4.8	4.5	0.3	5.3	10.5
輸送機械	13.5	1.8	8.0	10.0	9.4	4.5
食料品・たばこ	13.1	1.5		2.1	1.5	
鉱工業	100.0	2.9	1.9	4.3	3.4	1.7

- (備考) 1. 2020年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。
 3. 北関東は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

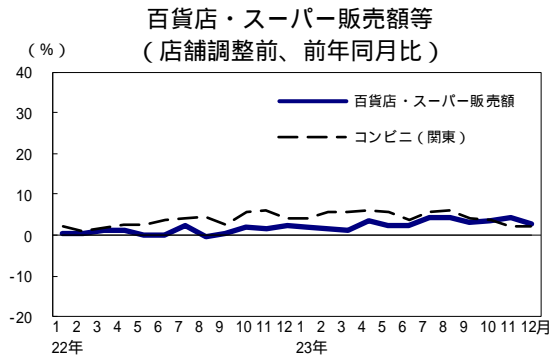
個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12月期は前期比0.0%増となった。月別にみると、10月は前月比0.1%減、11月は同0.8%増、12月は同0.5%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12月期は前年同期比3.5%増となった。月別にみると、10月は前年同月比3.6%増、11月は同4.4%増、12月は同2.7%増となった。



	2023年10 - 12月	2023年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.0	0.1	0.8	0.5
百貨店・スーパー(*2)	3.5	3.6	4.4	2.7
コンビニ(*3)	2.6	3.7	2.1	2.1
乗用車(*4)	13.5	14.3	15.1	10.9
(季節調整値)(*4)	6.4	13.6	6.1	0.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

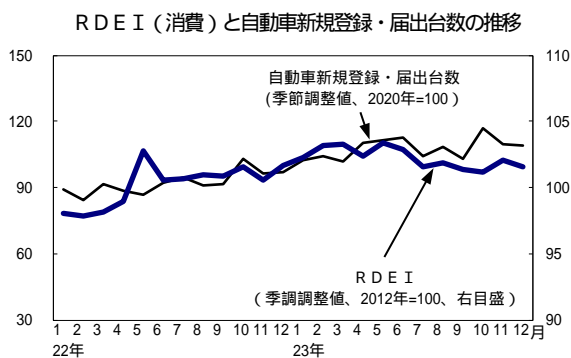
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

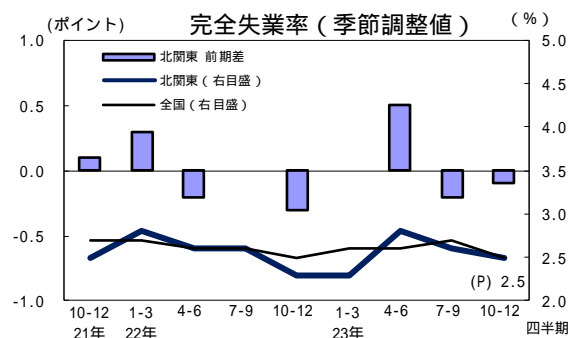
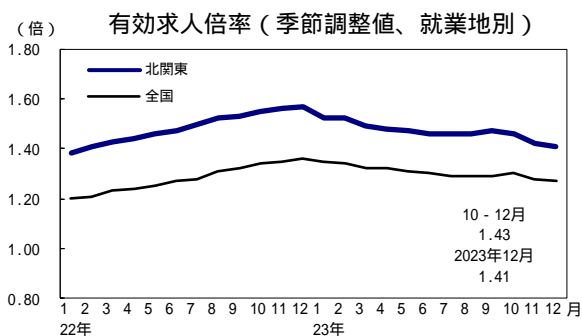
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P9 参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

2. 10 - 12月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和6年1月調査）景気判断理由の概要

3. 北関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計動向関連	□	・コロナ禍以降、店舗への来客数は順調に回復しているが、物価が高止まりし、特段変化が生じる状況にない（通信会社）。	
		▲	・仕入れ、経費共に物価上昇分が掛かっているが、土地代に転嫁できない。厳しい状況が続く（住宅販売会社）。	
		○	・1月の新年会の受注数や今月の獲得受注数も、2019年並みに戻ってきている（都市型ホテル）。	
	企業動向関連	□	・現在は3月の受注をもらっているが、年度末でもあるので調整に入るかと思っていたところ、ほぼ通常どおりに動いている。景気は余り変わらない（電気機械器具製造業）。	
		○	・取引先の生産が安定しているため、生産が滞りなく計画どおりに進んでいる（輸送用機械器具製造業）。	
		▲	・取引先に値上げを依頼しているが、人件費や経費の増加分をそのまま承してくれる取引先は、非常に少ない（不動産業）。	
	雇用関連	○	・次年度の求人募集について、既に複数企業から相談を受けている。業種に偏りはあるものの、雇用状況は好調である（学校〔専門学校〕）。	
		□	・求人に対してマッチする求職者が圧倒的に不足している。特に、20～30代の求職者の不足が続いており、求人を出す企業側の要望とのギャップが解消されない状態である（人材派遣会社）。	
		▲	・派遣社員の採用が減少しているため、やや悪くなっている（人材派遣会社）。	
	その他の特徴コメント			○：初売りは福袋の減少などで苦戦したが、食品エリアが好調に推移している。バレンタイン商戦のスタートも好調で、高単価の商材の売行きが良く、前年比105%と伸長している（百貨店）。 □：前月に続き、予約が伸び悩んでいる。オフシーズンの影響ともいえるが、他のレジャーに移っている可能性もあるとみている（ゴルフ場）。
先行き	家計動向関連	□	・値上げの影響で必需品についても買い控えが続いている。1円でも安く買おうという客の姿勢が見受けられる（住関連専門店）。	
		○	・株価上昇もあり、春に向けて国内旅行客、インバウンド共に増加が期待できる。地元のイベント等も新型コロナウイルス感染症発生前の状況に戻ってきている（旅行代理店）。	
	企業動向関連	□	・新年度を迎えるに当たり、新生活用品、白物家電や生活雑貨、引っ越し依頼等は前年並みの輸送を確保予定である。ただし、2024年のドライバーの労働条件規制等による車両不足が心配される状況である（輸送業）。	
		○	・前年より天候が良く暖かい日が続くと思うので、商材が早めに出ている。今後もこの傾向は続くと思っている（窯業・土石製品製造業）。	
		▲	・人件費や材料の価格高騰等で、資金繰りが厳しくなる企業が出てきている（金融業）。	
	雇用関連	□	・主要産業の新規求人数の前年同月比は、医療、福祉分野は増加傾向で推移しているものの、建設業、製造業では減少、増加を繰り返している（職業安定所）。	
	その他の特徴コメント			○：観光地等のホテルや旅館等ではまだ人手不足である。ただし、外国人等も含めた観光地での散策等の人出は増えているので、徐々に求人も動いて伸びていくのではないかとみている。年度末に向けて工事にも活発さが出ると思うので期待したい（人材派遣会社）。 □：イベントや行事が再開されてきているが、にぎわいはそのときだけで、後は少し寂しい感じである。これでは先の見通しが立たない（一般小売店〔精肉〕）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北関東）の推移（季節調整値）

